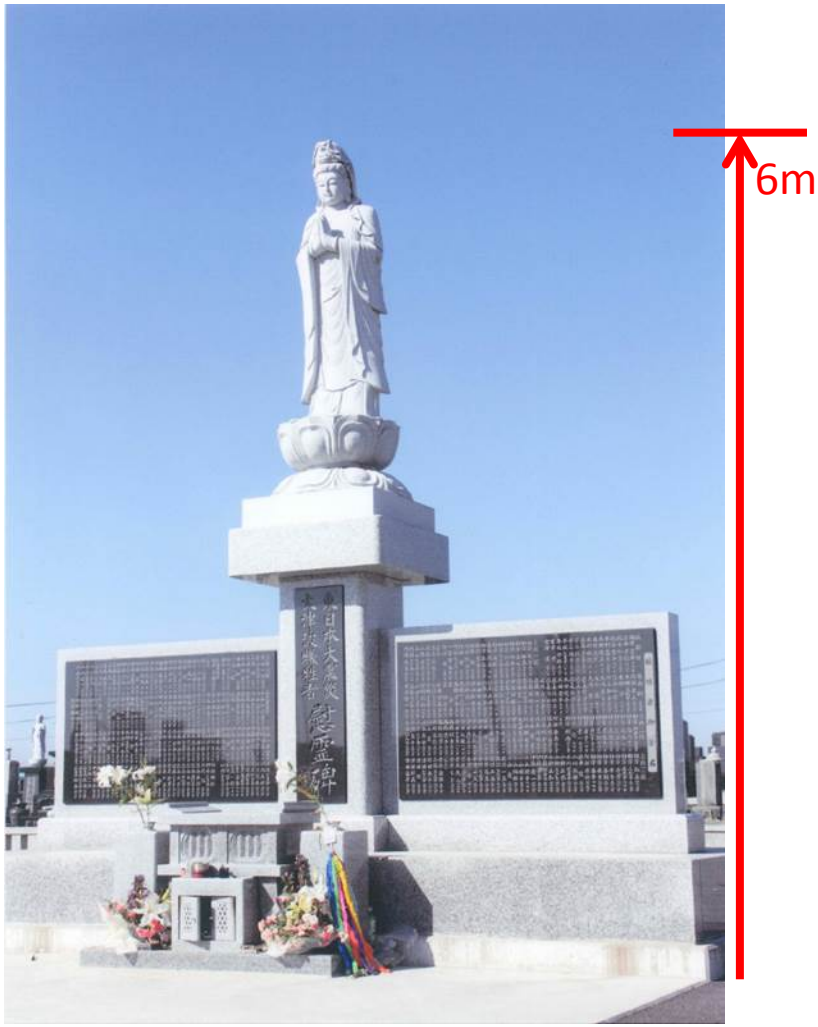
防災集団移転地あおい地区のまちづくり

宮城県 東松島市 あおい地区会　会長　小野 竹一

東日本大震災　大津波犠牲者慰霊碑

東松島市では、死者1,110人、行方不明者24人の犠牲者が出ました。市内大曲浜地区での犠牲者は320人を超え、慰霊碑には318名の名前が刻まれています。また、観音様の頭の高さが6mで、この場所を襲った津波の高さを表しています。



東日本大震災による津波被害（大曲浜）

津波で大きな被害を受けた住宅地と打ち上げられた船…宮城県東松島市で3月12日午後4時19分、佐々木順一

一番大きな写真の船の後ろに見えるのが私の家です（津波発生の24時間後）。現在は全ての家を取壊し、工業団地や緑地公園化の計画が進んでいます。また、この地区の住民は集団移転等でこの地に戻ることが出来なくなりました。

青い鯉のぼり

5歳で亡くなった弟、律君の為に、大好きだった「青い鯉のぼり」を全国の方々に呼びかけ、5月5日、子供の日にたくさんの青い鯉のぼりを揚げている、当時高校2年生の兄、健人君の「青い鯉のぼりプロジェクト」、パソコンで検索してみてください。

避難所・応急仮設住宅の様子

避難所内の様子

矢本運動公園に建設された応急仮設住宅の様子

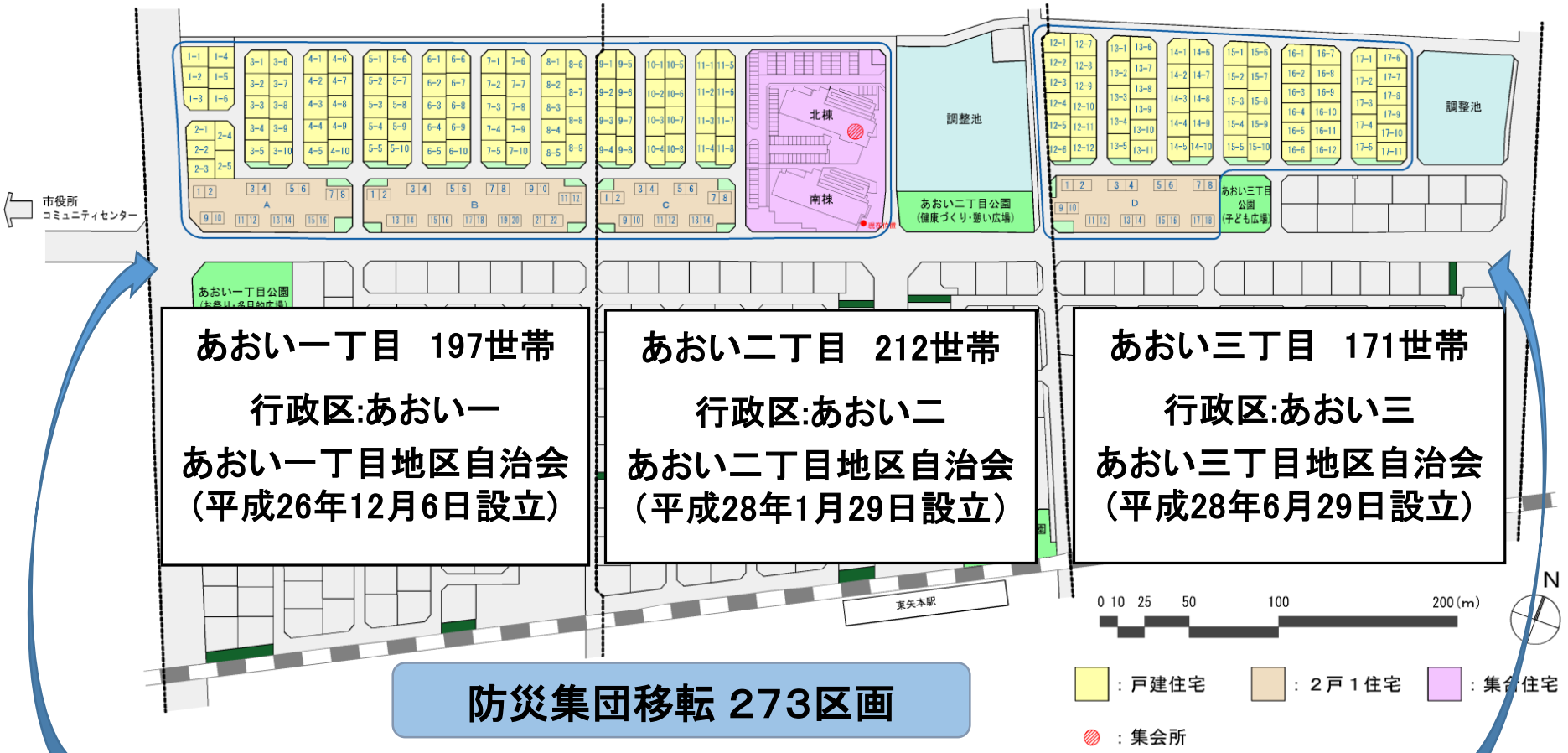
避難所や仮設住宅では、子供や学生さんが大人にできない力を発揮します。

- 子供の笑顔で大人が笑顔や元気を取り戻せる。
- 大人には、子供達にルールや規律を守る姿を見せましょうと呼びかけを行うとともに、物資等の配布を子供が行うと混乱がなくなります。
- 学生が班を作り、トイレ掃除を行うと、大人も一緒に行う様になります。

子供達は大人にできない、大きな力を持っています。

あおい地区の概要　580世帯が暮らす市内最大の集団移転地区

災害公営住宅　307戸（戸建：160戸、集合：77戸、2戸1：70戸）



あおい一丁目　197世帯

行政区:あおい一

あおい一丁目地区自治会

（平成26年12月6日設立）

あおい二丁目　212世帯

行政区:あおい二

あおい二丁目地区自治会

（平成28年1月29日設立）

あおい三丁目　171世帯

行政区:あおい三

あおい三丁目地区自治会

（平成28年6月29日設立）

防災集団移転 273区画

宮戸地域	野蒜地域	小野地域	大塩地域	矢本西地域	矢本東地域	大曲地域	赤井地域	その他地域
約 0.8%	約 12.6%	約 3.9%	約 0.2%	約 8.8%	約 12.0%	約 56.3%	約 4.3%	約 1.1%

あおい地区航空写真〈2016(H28)年8月撮影〉

大曲浜地区(津波防災区域に指定)：第一種住居地域 → 工業地域 (H25.12変更)
矢本運動公園仮設住宅：建設戸数 393戸　入居戸数 34戸　入居率8.7% (H29.1.20現在)

協議会を設立、住民と行政と協働でまちづくり

- これまで住んでいた地区は、津波防災（災害危険）区域に指定。
- 市が集団移転先の用地を取得し、宅地造成の基本計画を作成。
- 2012(H24)年6月～大曲浜地区民で月1回ペースで懇談会を実施。
- 2012(H24)年10月、設立準備のための懇談会（世話人選出など）
- 2012年(H24)11月、設立準備会（2回）を経て、
  「東矢本駅北地区まちづくり整備協議会」を設立。
- 2014(H26)年5月、「あおい地区まちづくり整備協議会」に名称変更。
- 2016(H28)年10月、解散。

協議会の組織体制（28年度）

協議会設立年月日
2012(H24)年11月21日

役員会(38人)
- 会長　1人
- 副会長　4人
- 理事　31人
  （会計担当含む）
- 監事　2人

少人数の専門部会で検討し、方向性を役員会に諮り、全会員対象の井戸端会議（ワークショップ）で意見を聞き、総会で最終決定する体制で会議を行い、年間90～120回、多い年は3日に一度のペースで協議会活動。

※ 二重取り消し線で消されてる部分は、役割を終えた部分。

専門部会

- ~~宅地・公共施設計画検討部会~~
- ~~区画決定ルール検討部会~~
  - ~~画地評価チーム~~
- 街並み検討部会
- 広報部会
  - ~~新しいまちの名称選考委員会~~
- 研修・イベント部会
- 災害公営住宅部会
- コミュニティ推進部会
- ~~自治連絡協議部会~~

あおいペットクラブ → 地区会での活動へ

ワークショップ等の実施により意見を集約

今まで経験のない大規模な集団移転、入居時期の差、学区(所属地域自治組織)など、課題は山積、ワークショップ等により糸口を見つけて行った。

第1回ワークショップ テーマ 「新しいまちに望むもの」	→	土地利用計画(案) 〈歩行者専用道路の追加設置〉
第2回ワークショップ テーマ 「新しい暮らしと向き合う」	→	区画決定ルール(案) 〈画地評価の目安設定(面積微調整)〉
第3回ワークショップ 街並みルールの検討	→	街並みルール(案) 〈壁面後退距離の緩和〉

※ ＜ ＞内は、ワークショップによる主な成果

＋

新しいまちづくりのための意見交換会(仮設住宅集会所)
↓
高齢者、子育て世代の意見も反映

井戸端会議（ワークショップ）の実施により意見を集約

生活に密着した内容のテーマを話し合っていくことになるため、多くの協議会員に参加してほしいとの願いがあった。そこで、高齢者になじみのなかったワークショップを「井戸端会議」と名称変更して実施した。

第１回井戸端会議（ワークショップ）「コミュニティや自治組織のあり方」	→	自治組織（案）
第２回井戸端会議（ワークショップ）「新しい公園・集会所について」	→	公共施設（案）［規模・間取り・維持管理］
第３回井戸端会議（ワークショップ）「ペット飼育・組織について」	→	あおいペットクラブ（規約修正案）
第４回井戸端会議（ワークショップ）「所属自治組織について」	→	三丁目の所属自治組織（案）

2012（H24）. 12. 10
～12. 12
第1回ワークショップ
矢本保健相談センター
→

初めて集団移転のまちづくりに向き合う

初めて仮設住宅集会所で開催。高齢者や子育て中の若い女性も多く参加。

2013（H25）. 1. 12
意見交換会
矢本運動公園仮設住宅東集会所
←

2014（H26）. 7. 21
自治組織に関する井戸端会議
グリーンタウンやもと2
仮設住宅集会所

→

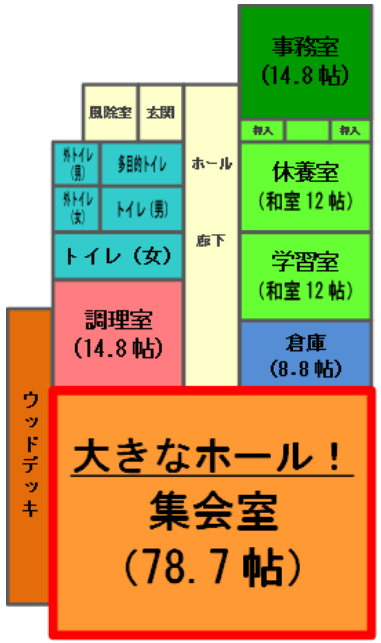
2つの地域自治組織エリアにまたがる形で造成された地区。どちらの組織に所属するか難題となった。

たくさんの思いが寄せられ、特徴のある集会所や公園が誕生した。

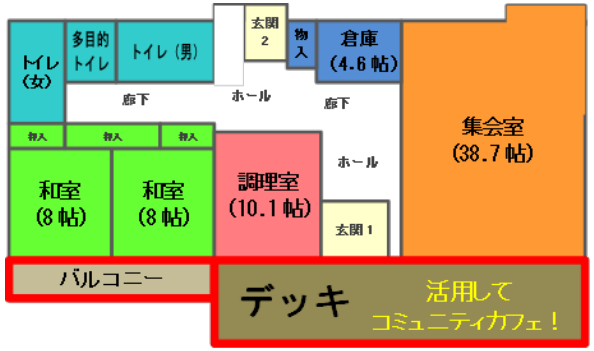
2014（H26）. 8. 31
公共施設に関する井戸端会議
矢本運動公園仮設住宅
東集会所
←

使用用途に合わせて考えられた集会所

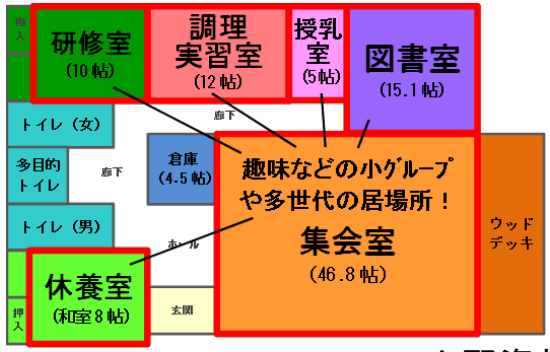
あおい西集会所
みんなが　あ　つまれる
大きなホール
（公園との一体利用）



市営あおい住宅集会所
みんなの　お　茶の間
地域のコミュニティカフェ



あおい東集会所
みんなの　い　場所
ふれあいの場
（図書室、授乳室 外）



季節が感じられ個性あふれる公園

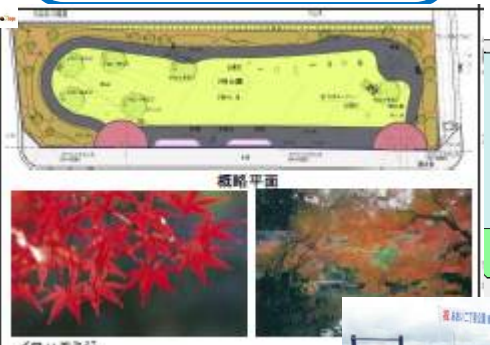
設置数
日本一！

あおい三丁目公園
（子ども広場）
夏の公園:ナツツバキ
複合遊具

あおい二丁目公園
（健康づくり・憩い広場）
秋の公園:イロハモミジ
20種類の健康遊具

あおい一丁目公園
（お祭り・多目的広場）
春の公園:サクラ
集会所と一体利用

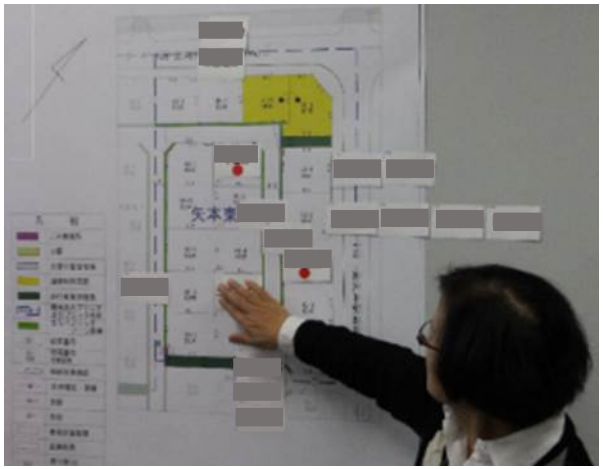
東矢本駅北公園
（駅前広場）
冬の公園:ケヤキ
イルミネーション



個別に家を建てる世帯の区画決め

- 2013(H25)年8月、区画決めの手順の説明会を開催。
- 20区画前後のブロックを設定し、各世帯の所属ブロックを決定。
- 複数世帯のグループでのエントリーも行った。
- 2013(H25)年11月に、全世帯がブロック毎に一堂に会して、個別に家を建てる245世帯の区画が決定した。

ブロック調整会の様子



区画調整会の様子

震災前の隣組や親子・親戚で近くに住みたい等の望みを叶える様に
抽選は一番最後の手段として、
・好きな人と一緒に同じブロックへ（約20世帯で15ブロックに設定）
・同じブロックの人同士で話し合い、決まらなければ抽選へ

時間はかかりましたが、譲り合いも生まれ、コミュニティ形成にも寄与。

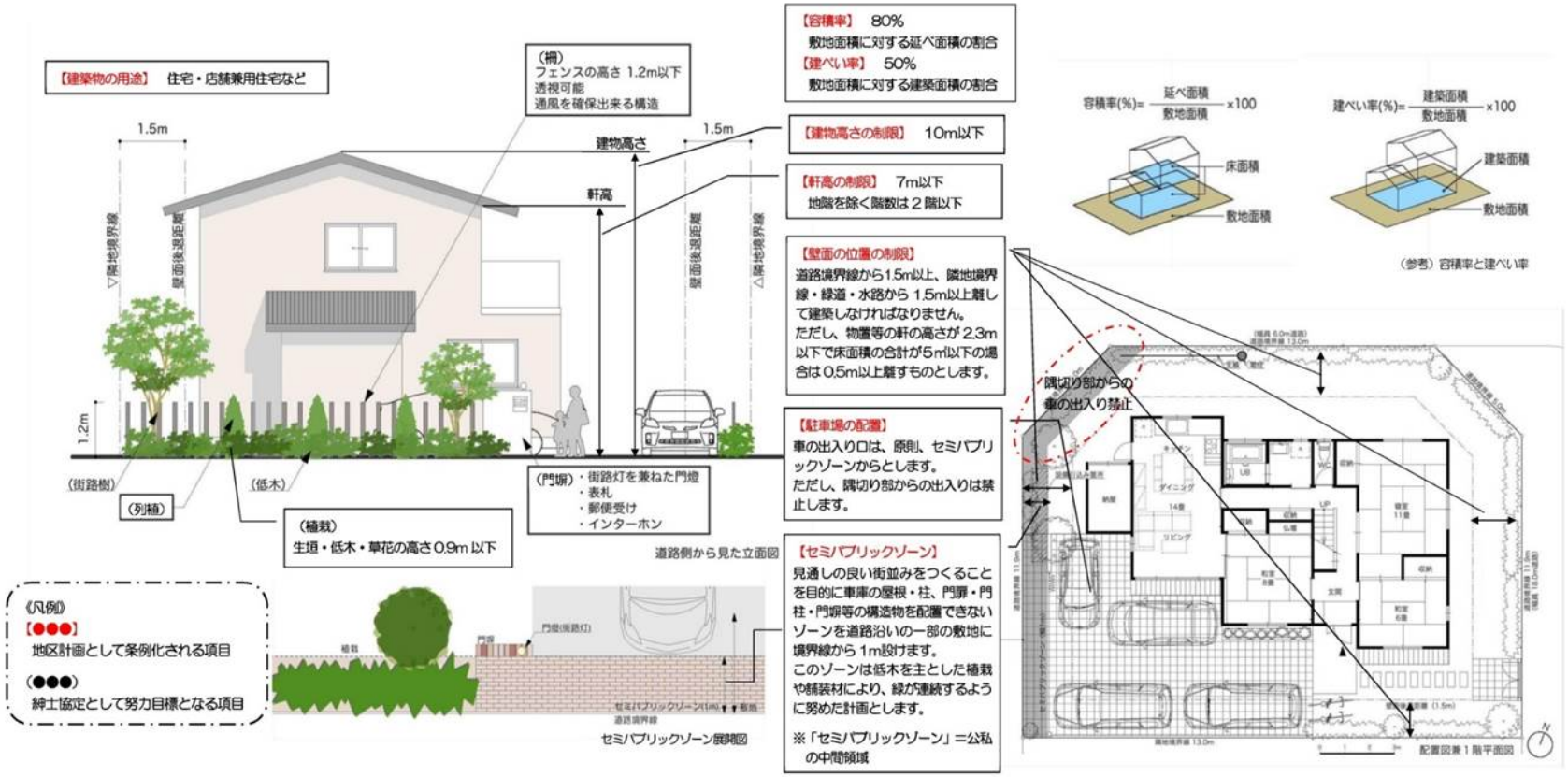
街並みルールの作成

- 2013(H25)年3月に住宅団地視察（３つの団地）。
- 視察結果を踏まえて、街並みルール（案）を作成。
- 穂波の郷（大崎市古川）を参考に、「セミパブリック（安全・ゆとり）ゾーン」を設定した。
- 2014(H26)年3月の臨時総会で「街並みルール」を承認。
- 2014(H26)年10月の臨時総会で「街並みルール」の地区計画化・条例化を市に要望することを承認。
- 2015(H27)年1月地区計画告示、同年3月条例公布。

住宅団地視察

穂波の郷の街並み

街並みルールの作成



隣地境界線から1.5m離す。柵は透視性があり1.2m以下、道路から1mはセミパブリック(安全・ゆとり)ゾーンとして植栽に努める等、厳しいルールですが、自分も守り、隣人にも守ってもらうことにより、快適な生活環境を守るためのルールでもあります。街並みがそろい、素晴らしい景観の街ができあがることを目指しています。住みやすいまち日本一は、現在、千葉ニュータウンです。その日本一の街に私達の団地は挑戦します。

情報共有への取り組みーまちづくり通信の発行

創刊準備号・創刊号～28号・臨時号・号外 全31回発行

創刊準備号
2012(H24).11

臨時号
2013(H25).9
希望登録の状況、ブロック調整会のお知らせ、新しいまちの名称募集 ほか

27号
2016(H28).6

結果・結論だけではなく、議論の過程などもできる限り掲載した。
また、事業などの事前告知も積極的に記事にし、参加率の向上を図った。

新しいまちの名称

公募（応募総数：293点）

↓

選考委員会で10点に絞り
会員による投票（1人1票）

↓

投票の結果（上位3点）
①あおい ②あゆみ野 ③結町

↓

上位3点が拮抗したため
選考委員による投票

↓

あおい

新しいまちの名称選考委員会を広報部会員を中心に組織し、中学生や高校生も加えて協議した。

「あおい」に込められた思い

東松島市のイメージ（海、空、田んぼ）を表し、かつ住所表記時に東松島市に続けても短くわかりやすい。

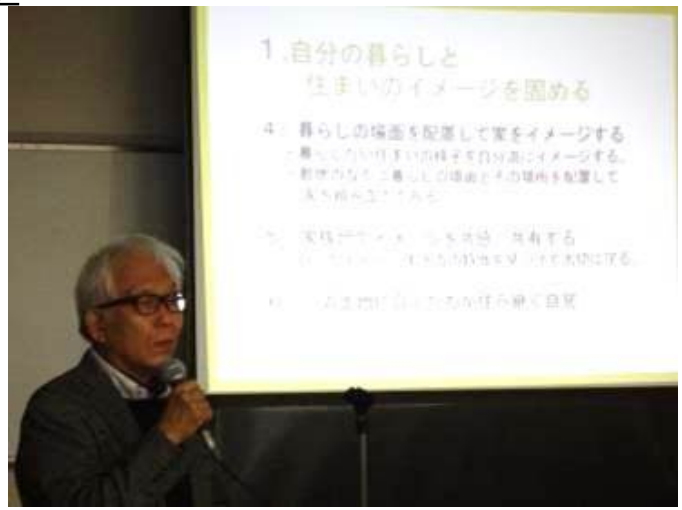
暮らしやすい街の実現に向けて各種勉強会・相談会を実施

▶2013(H25)年5月27日（矢本保健相談センター）

「安全で快適な暮らしを育む街づくり」
講師：(有)ｱｰﾊﾞﾝｾｸｼｮﾝ
代表　二瓶正史　氏

▶ 2013(H25)年10月30日（市コミュニティセンター）

①「自分らしい暮らしにあった家づくり」
講師：生活建築研究所
所長 山本厚生　氏
②「後悔しない住まいづくり」
講師：住宅生産振興財団
③「資金計画の基礎知識」
講師：住宅金融支援機構
地元金融機関



暮らしやすい街の実現に向けて各種勉強会・相談会を実施

▶ 2013(H25)年11月15日（大曲市民センター）

①「印西のまちづくりと地区計画」
～住みたいまちNo.1千葉県印西市のまちづくりを学ぶ～
講師：前印西市長　山﨑山洋　氏

②「いのちのセーフティーネット」
～素敵なまち・魅力的な街～
講師：明海大学不動産学部教授　齊藤広子　氏

▶ 2014(H26)年11月9日（大曲市民センター）

住宅なんでも相談会
・借地契約の流れ、支援金や補助金等の説明
・工務店、ハウスメーカー45社の
アピールポイント紹介
・工務店、ハウスメーカーブース相談
・融資・補助制度・建築プラン等個別相談

各種助成金を活用し研修会を実施

▶ 2015(H27)年9月26日～27日（民宿　かみの家）

第１回自治会設立準備研修会（合宿）
- ・嵯峨渓遊覧（アイスブレイク）
- ・自治会制度、協議会活動等の研修
- ・先進事例研修（DVD）

「やねだん～人口300人、ボーナスが出る集落～」
- ・コミュニティ醸成、自治会設立等意見交換

▶ 2015(H27)年10月21日（大曲市民センター）

第２回自治会設立準備研修会
- ・自治会設立までの検討経緯等研修
- ・先進事例研修（動画）
- ・パネルディスカッション

テーマ
「みんなが幸せになるためのまちづくりに向けて」

進行役：鈴木 孝男 氏（宮城大学 助教）
パネリスト：飯塚 正広 氏（あすと長町コミュニティ構築を考える会 代表）
大橋 公雄 氏（荒井東町内会 会長）
小野 竹一 氏（あおい地区まちづくり整備協議会 会長）

各種助成金を活用し研修会を実施

▶ **2016(H28)年3月9日**（市コミュニティセンター）

先進事例研修会～神戸の事例に学ぶ～
「コミュニティの解決力」
講師：HAT神戸／脇の浜県営高層住宅
自治会連合会長　松永　明　氏

- 合意形成がとっても大事。ひとりふたりは必ず反対者がいる。多数決は大切。決まったことは、反対していた人も従うということを同意してもらうことも大切。
- それぞれの人が獲得した経験・技術がある。それを引き出し、自治会の力に！
  元フランス料理のコック → 男のキッチン・スタジオ事業で活躍の場 → 副会長に就任
  植木屋 → 地域の植栽木の剪定に協力してもらっている。
- 問題には2つある。①問題があるということが問題。②問題でないことが問題
  平穏無事に見えても、見えないところに問題はある。気づかないことが本当の問題。
- 小さなコミュニティが集まって一つになる。この形が非常に強いコミュニティを作るもととなる。
- 話し相手を作る場や機会を提供していくことが大切である。
  花しゃんせ（おしゃべりサロン）、花守会とマイガーデン（プランター） など
- 自治会の役員に、福祉役を置いている。各階に世話役（見守りさん）を置いている。
- イベントから継続活動へ
  男のキッチン・スタジオ（作る愉しみを）、介護予防カフェ（おしゃべりで活性化）、まちの保健室（健康チェック）、フレッシュ・クラブ（生活支援）、びたみん食堂（養生食と会食の効果を）

各種助成金を活用し研修会を実施

▶ 2016(H28)年6月19日（市コミュニティセンター）

あおい三丁目地区自治会設立準備研修会

- フリートーク

  テーマ『多世代が地域活動に参加できる仕組みづくり』
  野﨑 瑞樹 氏 （東北文化学園大学 准教授）
  真壁 さおり 氏 （宮城県ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ支援事務所 社会福祉士）
  小野 竹一 氏 （あおい地区会 会長）
  雫石 かほる 氏 （あおい地区会 高齢者等見守り部会長）

- 研修

  三丁目地区自治会設立準備会で検討してきた事項

- 顔合わせ

▶ 2016(H28)年10月9日～10日（あすと長町復興公営住宅）

あすと長町・あおい地区役員交流研修会

- 互いのまちづくりについて情報交換
- 意見交換

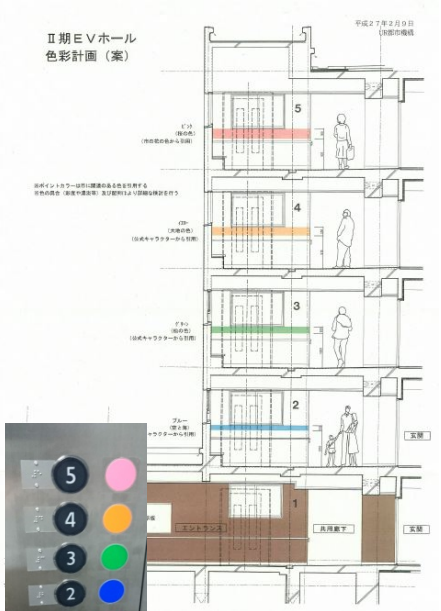
コミュニティ形成促進への取り組み

交流会　移転者が確定する前の早い段階から開催。回数を重ね、コミュニティ形成促進を目指した。

顔合わせ会　居住前に複数回開催。自立再建エリアでは、街区(班)ごとに境界フェンス共同設置など経費を抑える手法についても話し合われた。

居住者の意見等を反映した災害公営住宅

部会での協議を踏まえ、平屋の増加、ベランダの設置、仏壇置場の設置位置変更、エレベーターホールの設置（集合住宅）、間取りの修正などについて実現してきました。



高齢者や子どもに配慮し階ごとにシンボルカラーを設置

集合住宅1DK 2種類の間取り

ベンチを設置しコミュニティスペースとして活用するエレベーターホール

2014(H26)年10月、青森ねぶたで大交流会を開催し、第Ⅰ期入居を前祝い。

災害公営住宅入居式・鍵引渡し式

2014(H26)年11月、第Ⅰ期入居式、
あおい地区への入居がスタート！

2015(H27)年11月
第Ⅱ期（集合住宅）鍵引渡し式

2016(H28)年5月
第Ⅲ期・第Ⅳ期(戸建)鍵引渡し式

2016(H28)年7月
第Ⅳ期(二戸一)鍵引渡し式

あおいペットクラブ

飼主と共に暮らすペット達

街のﾊﾟﾄﾛｰﾙも兼ねた
散歩会

動物ふれあいコーナー

震災時で、家族が亡くなりペットは助かった
↓
災害公営住宅（原則としてペット飼育禁止）
↓市と協議
マナーを守り、周りに迷惑をかけないことを条件に戸建の災害公営住宅は、一代限りOK!
↓組織化検討
あおいペットクラブ設立

地区の子どもたちに、マナー向上啓発ポスターを描いてもらい、表彰するとともに地区内に掲示

ペットを介して新しいまちのコミュニティ形成を促進！

あおい地区のまちづくり　ピックアップ！

あおい地区（集団移転地）　安全・安心でゆとりがあって暮らしやすく魅力的なまち → 実現のために様々な工夫

あおい地区の自治会の主な特徴

○ 班とごみ集積所の管理

- 班は、なじみがある区画決めでも活用した約20世帯の街区
- ごみ集積所管理のグループは、道路を挟んだ(集積所を囲む)範囲

○ 役員

- 防災集団移転、災害公営住宅の双方からなるべく均等に選出されるように配慮。

○ 班長・副班長制

- 班長と副班長ともに任期 は、3カ月で副班長を務めたあとで班長を務める輪番制（1世帯が6カ月務める）。円滑な引継ぎや自治会費の集金も3カ月に1回と設定し、責務の平等化を図った。（負担感を共有し、協力意識の醸成も狙っている。）
- 班長と副班長は、早期のコミュニティ形成を目指して隣家ではなく、離れた位置の2世帯で組む形とした。

あおい地区会

設立年月日：2016(H28)年4月10日

単純な各自治会の連合組織ではなく、各自治会の自主的な運営を尊重しつつ、自治会の枠を超え、あおい地区全体として一体化して進めた方が、より効果的・効率的な事業に特化して取り組む組織。

＜活動内容＞

1　地域内の高齢者や子ども等に対する日常的な見守りを行う体制の構築

2　公園の除草及び維持・トイレ清掃・集会所の維持管理

3　地区住民の親睦を深める地区全体で行うイベントの実施

4　ペットを介したコミュニティ形成や、飼育マナー向上に関する啓発活動

（5　文化、スポーツ、趣味などの活動に対する援助）

（6　その他、生活向上に関する活動）

3つの自治会を横断する課題に効率的に取り組む組織「あおい地区会」

連関図

個別課題　個別課題　個別課題

自主対応　自主対応　自主対応

あおい一丁目地区自治会　あおい二丁目地区自治会　あおい三丁目地区自治会

横断的な課題・取り組み

・見守り・公共施設維持管理・親睦イベント
・ペットを介したコミュニティ ほか

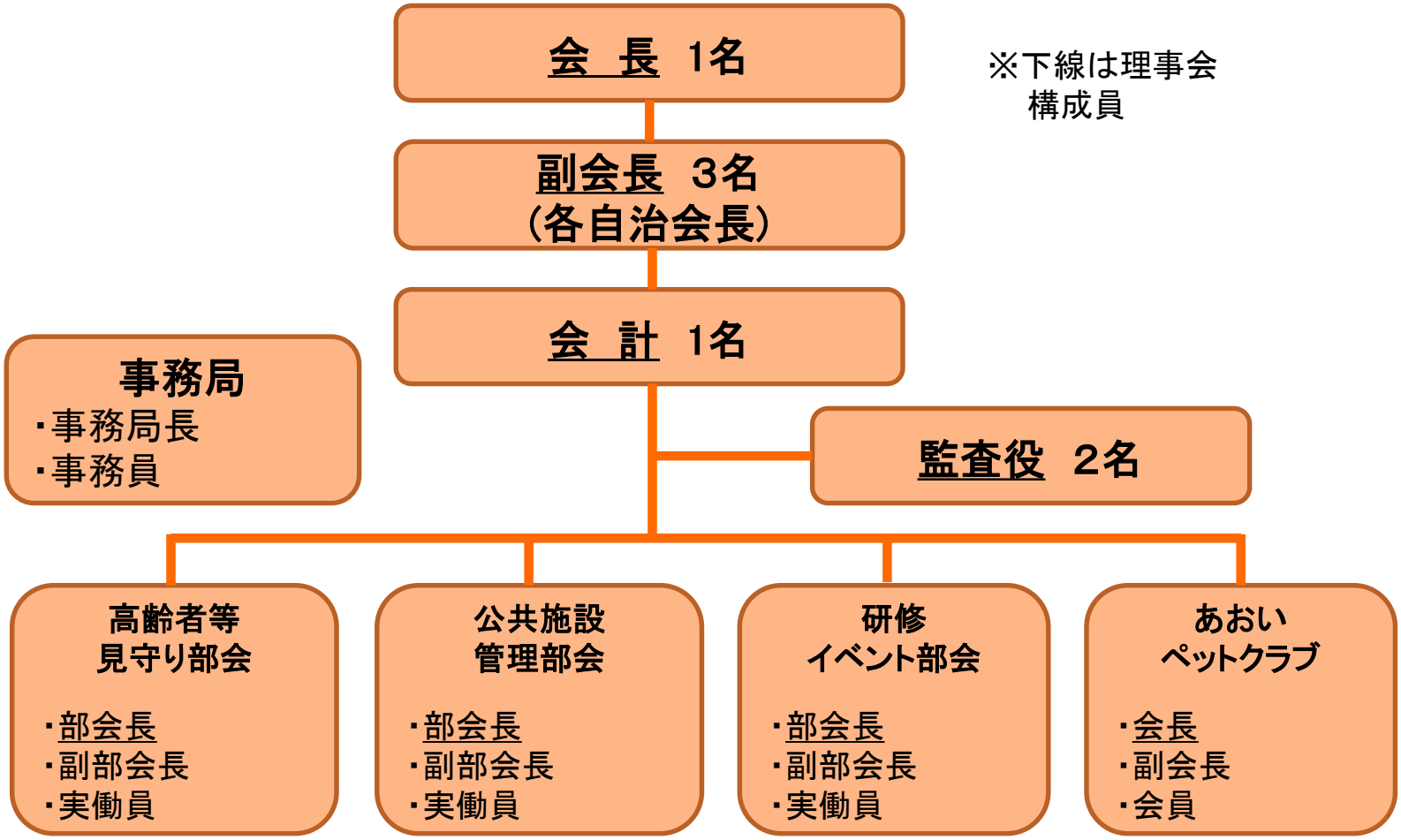
あおい地区会

2016（H28）. 8. 20 夏まつりコンサート

2016（H28）. 8. 20 夏まつり
子どもだんじり

あおい地区会

組織体制図



※下線は理事会
構成員

※ 実働員・・・ゆるやかに（都合がつく場合）参画する部会員
登録制

あおい地区まちづくり整備協議会からあおい地区会へ

2016(H28)年9月24日

あおい地区まちづくり整備協議会

解散宣言

10月20日に清算完了し、解散しました。

9月24日には、あおい地区まちびらき青森ねぶたまつりを開催し、まちびらきを、イベントで盛り上げお祝いしました。

あおい地区会の今後の事業展開

- **高齢者見守りシステムの構築**

→連携パトナーの模索
・・・東北文化学園大学
ぱんぷきん介護センター など
→住民が住民を見守る体制の確立

- **あおい人財バンクを活用したコミュニティ形成**

→登録者募集開始
→趣味や特技や資格などを活かし、趣味の会(集まり)や教室、各種イベントを展開し楽しいまちへ

- **あおいコミュニティ農園構想**

→被災買取り土地を活用し耕作
→特産品開発、コミュニティビジネスを展開
→生きがい・健康推進対策、次世代の人材・活動財源確保

医療福祉サービス復興再生ビジョン

2017年～2026年の10年計画

- 医療
- 介護
- 介護予防
- 生活支援
- 住まい

以上、5つのサービスを提供できる
地域包括ケアシステムの構築計画

サロン活動

ラジオ体操

あおい地区会へ業務委託
あおい地区会を法人化も検討
雇用の創出・宅老所等の高齢者の
集まるサロン・居場所づくり

百歳体操

あおい地区、東松島市を、日本一のまちに

- 皆で話し合い、知恵を出し、自分達の団地は自分達で作る
- 移転する人が決まったら、早く顔見知りとなる交流会を開催する
- 区画決めは100%は無理でも70%～80%満足できる方法を考える
- 家を建てるルールを決めることにより、自分の生活を守り、きれいな街並みを作る
- 公園と集会所等の公共施設は、1か所1か所使い方を話し合う
- 新しいまちの名称を募集するなどし、みんなで決める
- 他の住宅団地の視察や先進事例の勉強会等を行い、会員のレベルUPを図る
- 今、取り組んでいることや、活動内容を全会員に知らせる広報物を発行する
- ペットを飼うルールを決め、認めてもらい、一緒に暮せるまちを目指す
- 高齢者や子供たちを、地域内の住民で見守れる体制を作る

以上の事が出来た時、きれいな景観の街並みで、高齢者から子供達まで安心で安全に暮らせる街となり、子や孫の時代の20年先、30年先も「日本一のまち」として全国から見学に来てもらえるような街となります。

また、震災後全国各地から来ていただいたボランティアの方々や、ご支援をいただいた方々への御礼は、「日本一のまち」を作ることだと考えています。

ご清聴ありがとうございました。